

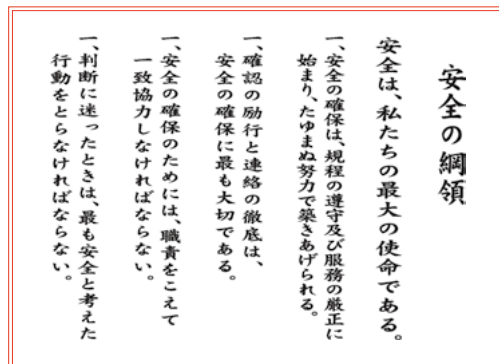
安全の創造

JR九州グループが最優先すべきは「安全」です。

安全施策の展開と安全風土の醸成を両輪としたマネジメントシステムの確実な実行と改善により「ゆるぎなき安全」の実現へ挑戦し続けることで、皆さまに安全で安心な鉄道を提供します。

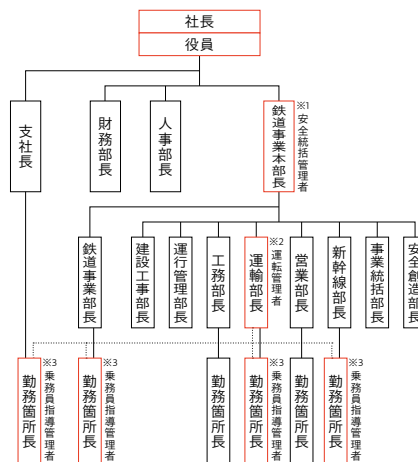
基本的な考え方

「安全の綱領」は、鉄道の安全に関わる当社の「理念」を表すとともに、社員が常に心がけて行すべき“規範”です。従業員一人ひとりには「安全の綱領」に示す「安全は、私たちの最大の使命である」という基本的な考え方をもとに安全性向上に取り組んでいます。



安全管理体制

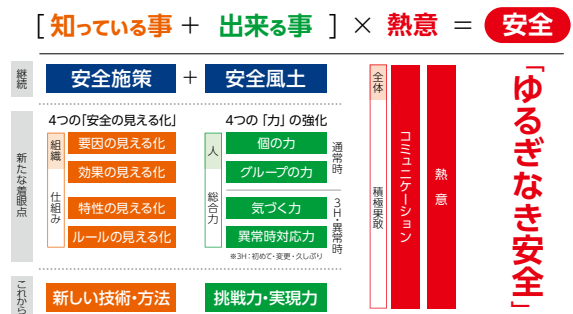
経営トップの主体的関与のもとに安全統括管理者、運転管理者等を中心とする安全管理体制を確立し、輸送の安全の維持及び向上を図ることを目的として安全管理規程を制定しています。安全基本方針の策定、安全に関する取り組みの展開、安全監査及び安全点検等による取り組みの有効性の確認、改善のPDCAサイクルを良好に機能させ、輸送の安全の確保及び自然災害対応能力の向上に努めます。



経営トップ (社長)	- 輸送の安全の確保に関する重要な事項を決定する。 - 安全統括管理者がその職務を行ううえでの意見を尊重するとともに、必要により措置を講じる。
※1 安全統括管理者 (鉄道事業本部長)	- 輸送の安全を確保するための運転取扱い、車両、鉄道施設の各部門を統括する。 - 安全意識の向上、関係法令等の遵守の徹底及び安全基本方針等の確実な実施を図る。
※2 運転管理者 (運輸部長)	- 輸送の安全を優先する運行計画の作成及び改正、乗務員及び車両の運用、乗務員の育成及び資質の維持等を行う。 - 運転に関する業務について、関係部長等から必要な報告を求め、指示を行う。
※3 乗務員指導管理者	所属する乗務員の資質の維持、管理に努め、運転管理者へ報告する。

安全をつくる仕組み

当社グループは、「ゆるぎなき安全」の実現のための3カ年計画である「安全中期計画2023-2025」に取り組んでいます。本計画では、安全をつくる仕組みとして「安全をつくるのは知識や技術だけではない。熱意が『ゼロ』なら安全は『ゼロ』、熱意が2倍なら安全は2倍!」という考え方を表す「安全の方程式」を設定しています。また、4つの「安全の見える化」と4つの「力」の強化を中心とした取り組みを展開し、「ゆるぎなき安全」の実現に挑みます。



目標の設定

「ゆるぎなき安全」の実現の具体的な「考え方」と「目標」について、【お客さま及び社員等の命・怪我】につながる事故を根絶することを頂点とし、各目標を設定しています。

命 怪我	お客さまの死傷事故 従業員等の死亡災害 三大労災(触車、感電(高圧)、墜落) 鉄道運転事故(当社グループ責任)	根絶する 期間を通じ0件
危険な 事故・事象	インシデント 指導を要する事象(危険なもの) 最重点項目 信号違反 ドア扱い違反 ※再掲 触車事故防止違反	撲滅を目指す 0件/年の達成
ご迷惑をおかけする 事故・事象	鉄道運転事故 ※当社グループ責任除く 踏切障害事故 鉄道人身障害事故 車両故障 線路故障 送電故障 保安装置故障 故障(輸送障害) 指導を要する事象(迷惑をかけるもの)	最終年度の到達目標 10件 10件 15件 0件 0件 0件 5件

安全の創造

目標達成に向けた取り組み

総力を挙げた「ゆるぎなき安全」への挑戦

最重点項目

信号違反・ドア扱い違反・
触車事故防止違反への取り組み

- 安全をつくる仕組みのさらなる充実
- 安全を支える社員等の総合力向上
- 鉄道運転事故等の未然防止
- 激変する環境への柔軟で強靱な対応
- 車両・設備の故障防止

新技術等によるさらなる安全への挑戦



AIやセンサー使用による
自動分析・自動検出



映像解析やドローン活用
による省力化・高精度化



システムによる
状態監視とCBM



アプリを活用した
支援装置開発の推進

■ 鉄道における安全の状況報告

鉄道事業における運転事故、輸送障害及び労働災害等の発生状況については、四半期ごとに経営会議及び取締役会において報告され、安全に関する取り組みや管理体制が適切であるか確認することで、取締役までが一体となって安全性の向上に取り組んでいます。

■ JR九州グループ一体となった取り組み

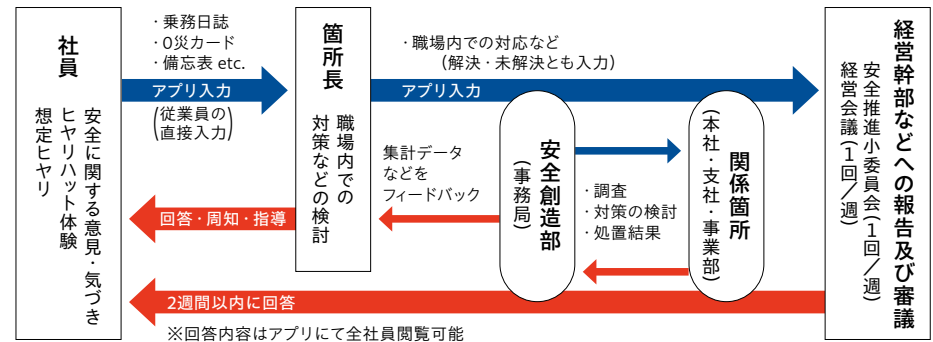
危険な事象や労働災害の発生状況、安全対策等の情報共有を図る目的で、JR九州グループ（鉄道関係6社）の安全担当の責任者との定期的な懇話会・施設見学会を実施しています。



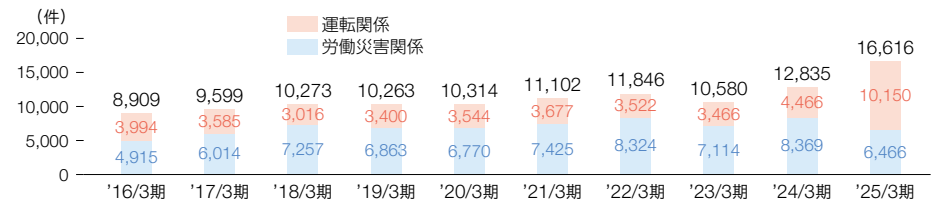
「安全に関する社員の声」

「安全に関する社員の声」は、従業員の安全に関する「意見や気づき」及び「ヒヤリハット体験」、「想定ヒヤリ」を共有し、事故や危険の芽を未然に防止するためのシステムです。内容と対策を2週間以内に経営会議で報告及び審議し、その情報は社内ネットワークにより全従業員に開示しています。2025年3月期には16,616件の「声」が上げられました。

「安全に関する社員の声」のフロー



「安全に関する社員の声」の過去の10年間の件数



「安全に関する社員の声」による改善事例

声の内容

八幡駅にて、ホームから線路内に立ち入るお客さまを確認。現場を確認すると線路沿いにあるフェンスが一部なく、外からも出入り可能な状態であった。

対策

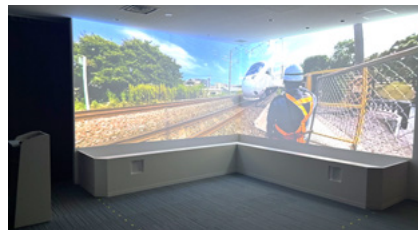
お客さまが線路内に立ち入りにくいように、空いていた隙間にフェンスを設置した。

安全の創造

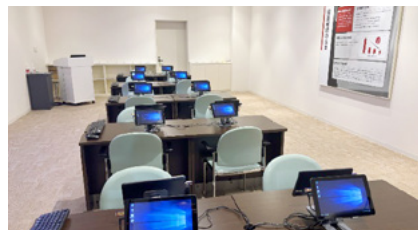
安全創造館

安全創造館は、「過去の事故等の教訓を風化させず、基本動作や安全対策の意味を理解し、お客さまや社員の安全のために行動できる社員の育成」を理念として、2011年1月に開設しました。2024年9月からは、「人は何故、ルールを破るのか」を、意図しない行動の結果で起こるヒューマンエラー（うっかりミス・ぼかミス）と、意図した行動の結果で起こるヒューマンエラー（不安全行動）から考え、最も安全と考えた行動ができる社員を育成することを目的とした、7巡目研修を実施しています。安全創造館開設以来、2025年3月末までに延べ66,635名（グループ会社従業員を含む）が受講しました。

また、2024年度に発生しました、JR九州高速船株式会社における安全確保に関わる重大な問題発生を受け、事象の経緯、主要な問題、原因、再発防止対策を学ぶためのパネルを展示しました。パネルを利用した教育にあたっては、社員一人ひとりが日々の業務に対して、自分が間違っていることに直面した際に「NO」と声を上げ、誠実に報告できるよう、自職場そして自分にとっての安全とは何かをゼロから考え、誠実に行動するために何をすべきか考える時間を設けています。



労働災害学習室
労働災害の事例展示や360°映像を体感して労働災害を学びます。



レビュールーム
ヒューマンエラーの体験をすることができます。



JR九州高速船株式会社事象学習パネル

地震・津波への対応、テロ・防犯対策訓練の実施

■ 大規模地震想定訓練

2005年3月20日に発生した「福岡県西方沖地震」を教訓に、大規模地震が発生した際、お客さまの避難誘導や情報伝達の迅速化等を目的とした訓練を毎年実施しています。2024年11月に実施した訓練では大規模地震発生直後、6時間経過後など状況を変えながら対策本部と関係箇所間での情報収集や復旧計画の取りまとめ等、状況に応じた想定訓練を行いました。



本社対策本部



博多指令



支社対策会議（大分支社）



支社対策会議（鹿児島支社）

■ 大津波避難誘導訓練

大分地区及び宮崎地区では、南海トラフ地震を含め津波警報発令時における迅速な避難・誘導と防災・減災対策の推進を図る取り組みとして、地域の方々や警察・消防機関、関係自治体と合同で、避難誘導訓練を実施しています。



避難階段を活用した避難



車両から降車する様子

■ テロ・防犯対策訓練

テロ発生時及び犯罪等発生時の対応能力向上を目的として、毎年テロ・防犯対策訓練を実施しています。本社及び各支社において、列車内での事象を想定した警察と合同の異常時対応訓練を実施し、不審者発見後の迅速かつ的確な対応及びお客さまの避難誘導等の訓練を行っています。



テロ・防犯対策訓練の様子